

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.189 2013.11.1

天皇皇后両陛下

学都松本のシンボル・旧開智学校へ

平成25年8月24日（土）に、天皇皇后両陛下が国重要文化財
旧開智学校校舎を見学されました。

140年の松本の学びの歩みをご覧いただきました。



旧開智学校に集まった大勢の市民



展示室内での天皇皇后両陛下



ご来館になった天皇皇后両陛下と、お出迎えの斉藤金司教育委員長（左）、吉江厚教育長（右）

もくじ	誌上博物館	◇「明治7年 諸事綴」—文部省巡視が契機となった学校整備—	2
		◇企画展「旧制高校出身著名人の書簡」	3
	資料紹介	◇工女宿宝来屋の宿帳	3
	ガイドコーナー	はんでんぼく	4

「明治7年 諸事綴」—文部省巡視が契機となった学校整備—

現在、重要文化財旧開智学校校舎では、記念展「開智学校にみる進取の気風—教育権令永山盛輝と棟梁立石清重」を開催しています。その中で展示している資料に、「明治7年 諸事綴」という資料があります。その名のとおり、明治7年の開智学校で作成された雑多な書類が綴じられた資料です。今回は、この綴りからみえる当時の学校を巡る動きについて紹介します。

1 綴られている書類

中にある書類で多いのは、学校備品の購入や修繕の依頼、学校への通達です。

備品購入願いの多くには、生徒が増えたため、机やイスが足りないので購入したいと記されています。これは、明治7年3月から教育振興のために行われた筑摩県権令永山盛輝の県内巡視の成果により、生徒が増加したためといえるでしょう。ほかにも、教員の月給報告や忌引きによる教員の欠席報告など、さまざまな書類が綴られています。

2 文部省官員の県内巡視

綴られている書類の時期をみると、全体の4分の3ほどが明治7年7月から9月に集中しています。この時期にこれだけ集中したのは、文部省官員の県内巡視があったためと考えられます。

文部省官員が、筑摩県を含む第2大学区の学校巡視に来たのは、同年9月下旬のことです。7月4日に文部省から巡視の通達があり、それ以来、筑摩県下では学校の整備が急ピッチで進められます。この経緯について、中村一雄の「説諭要略記」によると、文部省から通達の後、永山から県下の各学校に4つの整備条項が示されたといえます。それは、①校則・教則の整備、②器械・書籍の完備（机・イス・地球儀・暗射図など）、③生徒の行状、④教員の補充です。また、不就学者名簿や学校出納帳などの書類提出も求められたとされています。

この時期の書類には、ほかに地球儀や暗射図購入の願いなどが綴られており、永山の督励を受けてのものだということがわかります。

9月12日の書類には、「本月下旬文部省官員御派出二付過日渡辺千秋殿御巡校予メ不体裁之廉御承知モ可被為在右二付尚二校共検査仕候処」破損箇所が多く修繕が必要だが、「最早御派出日限モ差迫」っているの、早速指揮をされたいとあります。文部省の巡視が迫り、あちこちが壊れた学校では「不体裁」ということで、学校から修繕が

願い出されていたのです。

また、文部省の巡視後ですが、11月に開智学校より「当校器械先般文部省御派出前予備品設置候処近頃引続入校多不足ニ付」、机とイスを購入したいという願いが出されています。これも、永山の教育振興の成果を示すとともに、文部省官員の巡視に合わせて器械整備が進められたことを表しています。余談ですが、こうした購入・修繕の資金には、「校金」のほかに「廃寺買却金」が充てられています。寺の建物が教室に使われただけでなく、廃寺の売却金のように、資金面でも廃仏毀釈が果たした役割は大きかったようです。

「明治7年 諸事綴」内の校舎修繕の伺い



3 「諸事綴」が示す学校の動き

教育振興をすすめた永山にとって、文部省の県内巡視は格好の晴れ舞台であったでしょう。文部省に県下の教育水準を知らしめるため、より一層学校整備に力を入れたことが「諸事綴」から見て取れます。その気合の入れようは、同じく綴られている次の書類からも想像できます。それは、「暑中休業可相成之処文部省官員迎校前二付時間ヲ縮メ午前第七時より同第十一時迄授業可致候事但明廿一日より八月十五日迄」というものです。本来なら夏休みの時期ですが、文部省官員を迎える前なので、午前中だけ授業を行うと書かれています。子どもにはとんだとぼちりだったかもしれませんが、教育が盛んなことを示すための、永山の意気込みといえるのではないのでしょうか。

永山自身の県内巡視など、様々な学校整備の施策が行われていた当時、この文部省巡視も大きなトピックの一つだったといえるでしょう。一見、雑多な書類の束にみえるこの綴りにも、重要な歴史が隠されているのです。

(重文旧開智学校校舎学芸員／遠藤正教)

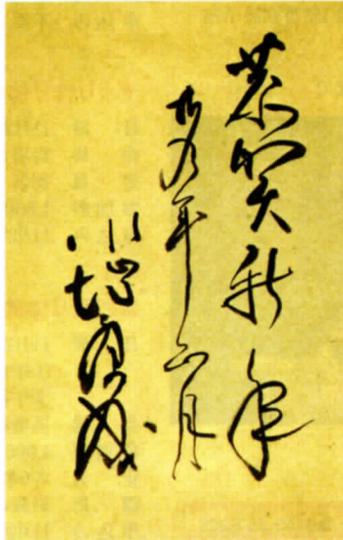
【参考文献】 中村一雄「説諭要略記」(中村一雄監修「復刻 説諭要略」 昭和45年に所収)

記念展「開智学校にみる進取の気風
—教育権令永山盛輝と棟梁立石清重—

9月21日①～11月24日②

企画展「旧制高校出身著名人の書簡」

かつて全国に41校を数えた旧制高等学校は、明治19年（1886）に設置が開始されてから昭和25年（1950）にその歴史を閉じるまでの間、帝国大学への進学に先立つ予備教育の場として、多くの優れた人材を育てました。文学者や政治家など世間に知られた方も多いのですが、あまり知られていなくても、それぞれの専門分野で力を尽くされた方も少なくありません。



川端康成はがき「恭賀新年」(昭和29年1月5日消印)

その全容を一度に紹介することはとうていできませんが、本展では旧制高等学校資料研究会の協力により、旧制高校で学び、文学・自然科学・工学・教育など様々な分野で活躍した著名人が残した手紙やはがき、代表的な著書など約80点を展示します。

あわせて、著名人の肖像とその業績をデザインした切手の拡大パネルや、若き青春の日をしのぶ旧制高校生時代の写真パネルも展示します。

多くの直筆書簡にふれていただき、それぞれの方の業績や著作に興味を持っていただくきっかけになれば幸いです。

(旧制高等学校記念館学芸員／白井邦彦)

企画展「旧制高校出身著名人の書簡」

10月12日(土)～12月8日(日)

工女宿宝来屋の宿帳

松本市歴史の里では、11月24日（日）まで、企画展「工女宿宝来屋の暮らし～山里の明治・大正時代～」を開催しています。展示会場では、宝来屋で使われていた道具や、奈川地区の民具約50点を展示しています。今回、この中から、宝来屋に伝わる宿帳を紹介します。

宿帳は、宝来屋の宿泊客が記録されたもので、到着や出発日時、目的地、職業、年齢などが書かれています。主な記載時期は大正2年（1913）から8年までで、それ以外の期間の宿帳は残っていませんが、当時の宝来屋の宿泊客について知ることができる貴重な資料です。

宿帳からは、大正時代の宝来屋の宿泊客の6割が、製糸関係者（工女など）で占められていることがわかります。この頃の長野県は、製糸業が発展しており、飛騨地方から諏訪地方に行く製糸関係者が多く宿泊していたことを裏付けています。

こうした製糸関係者は、団体に泊まるのが多く、宿帳では、最大86名の団体が確認できます。こうした大人数の団体の宿泊も、大正5年以降からは確認できなくなり、工女宿が衰退していく様子

がわかります。

宝来屋の隆盛から衰退までを物語る資料を、ぜひ展示会場でご覧ください。

(松本市歴史の里学芸員／宮井博樹)



宿帳

企画展「工女宿宝来屋の暮らし～山里の明治・大正時代～」

9月28日(土)～11月24日(日)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「刺し子と東北の民芸」

全国各地の刺し子や、東北地方ならではの陶磁器・郷土玩具・編組品などを展示します。

会 期 10月29日(火)～平成26年1月26日(日)
会 場 松本民芸館
観 覧 料 通常観覧料



講演会「住まいと民芸」

職人の手仕事にこだわった住宅づくりや伝統に則って古民家に新しい命を吹き込む家づくりに取り組む建築家が住まいと民芸について語ります。

日 時 11月23日(土) 午後1時～3時
会 場 松本民芸館
定 員 40人
聴 講 料 通常観覧料
講 師 川上恵一氏/1級建築士
申 込 み 松本民芸館まで

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

学都松本・博物館
第27回「勸館楽学」対談

日 時 12月7日(土) 午前10時30分～正午
会 場 松本市立博物館2階講堂
テ ー マ 「精神基盤としての白樺派
～信州における民芸運動から
その真相に迫る～」(仮)
対 談 者 柳澤孝夫氏(松本市博物館協議会委員)
草間厚伸(市立博物館/学芸員)
聴 講 料 200円

学都松本・博物館
第16回学芸員松本モノ語り

日 時 12月14日(土) 午前10時30分～正午
会 場 松本市立博物館2階講堂
テ ー マ 薄川支流 海岸寺沢の石堤
一江戸時代に松本の人
水害とどう向きあったのかー
語 り 手 関沢聡(市立博物館/課長補佐)
聴 講 料 200円

年中行事シリーズ「冬至かぼちゃサービス」

日 時 12月22日(日)
午前10時～無くなり次第終了
会 場 松本市立博物館1階ロビー

重要文化財旧開智学校校舎から ☎0263-32-5725

第7回 明治の授業

旧開智学校校舎の中で明治時代の授業を体験してみませんか。

日 時 11月17日(日)
午前9時30分～午後0時30分
会 場 重文旧開智学校校舎1階特別展示室
対 象 小学5年生の親子
定 員 親子各20名ずつ
申 込 み 電話で旧開智学校まで



旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第122回
サロンあがたの森「私と中国—出会いと今」

日本語教師として1993年から1年間中国に滞在されたご経験から、当時出会った優秀な青年たちとの学びと交わりについて、また現在の中国や韓国との関係についてお話いただきます。

日 時 11月9日(土) 午後1時30分～4時
会 場 あがたの森文化会館 1-5教室
話 題 提供 下山田誠子氏
聴 講 料 無料

企画展「旧制高校出身著名人の書簡」

文学・学術・政治など、さまざまな分野で活躍した旧制高校出身の著名人約60人を、書簡や著書、人物切手などで紹介します。

会 期 10月12日(土)～12月8日(日)
会 場 旧制高等学校記念館ギャラリー
観 覧 料 無料

四賀化石館から ☎0263-64-3900

「化石教室」レプリカ作りコース

アンモナイトや三葉虫の化石のレプリカを作ります。

日 時 11月30日(土)
①午前9時～11時30分
②午後1時～3時30分
会 場 四賀化石館
定 員 各回30人(小学生以下は保護者と参加)
参 加 料 500円(観覧料を含む)
申 込 み 前日までに電話で四賀化石館まで

重要文化財馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日 時 11月10日(日) 午前10時～正午
会 場 馬場家住宅主屋
参 加 料 通常観覧料
講 師 松風の会(表千家)
申 込 み 不要

ぞうり作り体験教室

日 時 11月23日(土) 午前10時～午後3時
会 場 馬場家住宅主屋
定 員 10名
参 加 料 1,800円
申 込 み 11月20日(水)までに電話で馬場家住宅へ

はた織り体験教室(裂布・ボロ織り)

日 時 11月23日(土)
①午前10時～正午
②午後1時～3時
会 場 馬場家住宅門長屋
参 加 料 1,000円
定 員 各6名
講 師 染織の会
申 込 み 11月20日(水)までに電話で馬場家住宅へ

そば打ち体験教室

日 時 11月24日(日) 午前9時～正午
会 場 馬場家住宅主屋
参 加 料 500円
定 員 20名
申 込 み 11月6日(水)から電話で馬場家住宅へ
※馬場家住宅前ではお菓取りまつりが開催されます。

馬場屋敷ピアノリサイタル

日 時 12月14日(土) 午後2時～
会 場 馬場家住宅主屋
参 加 料 無料
演 奏 者 ヤスヨ・テラシマ・ヴェアハーン氏

松本地方の御柱展

松本地方に正月の風習として残る「御柱」の行事を紹介します。

会 期 12月7日(土)～平成26年1月19日(日)
会 場 馬場家住宅主屋
観 覧 料 通常観覧料



松本市内田地区荒井のおんべ

あとがき

10月1日から旧開智学校勤務となりました。初仕事が館ニュースの編集でした。8月の天皇皇后両陛下の行幸啓や北信越市長会など、今年も旧開智は注目を集めています。来ていただいた方に松本の学びについて感じ取ってもらえるような演出をこれからも多く行ってまいります。(M.E)

あなたと博物館 No.189

発行/平成25年11月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社